



激動の第二次世界大戦下。外交官として赴任していたリトアニアで、ナチスの迫害から逃れてきた六千人ものユダヤ難民を救った杉原千畝。日本政府に背き、命のヴィザを発行し続けました。

2019年9月20日（金）
厚木市文化会館小ホール

厚木市恩名1-9-20 電話046-225-2588)

上映時間 139分（3回上映）

1回目：10：30（10：00）

2回目：14：00（13：30）

3回目：18：00（17：30）

（ ）は開場予定時刻

前売券：900円（学生・障がい者・付添い者 500円）

当日券：1200円（学生・障がい者・付添い者 600円）

前売券
取扱先

厚木市文化会館（チケット予約センター 電話 046-224-9999）

有隣堂厚木店（厚木市中町2-6 電話 046-223-4111）

せいきょうあつぎ診療所（厚木市水引2-8-29 電話 046-223-3325）

問い合わせ

小池 080-3172-3441

樽石 046-228-6931

山本 080-1172-1094

主催：厚木市九条の会ネットワーク 共催：県央シネサロン

あなたは知っていますか？

激動の第二次世界大戦下。外交官として赴任していたリトアニアで、ナチスの迫害から逃れてきたユダヤ難民に、日本通過ヴィザを発給し、6000人もの命を救った一人の日本人がいたことを—
その男の名は、杉原千畝。

彼は、英語、露語、独語、仏語など数カ国語を操るインテリジェンス・オフィサー（諜報外交官）として、満州、フィンランド、リトアニア、ドイツ、チェコ、ルーマニアなど様々な国に滞在。身の危険を冒しながら、混沌とする世界情勢の情報を集め、日本に発信し続けた。そのため、当時のソ連から警戒され[ペルソナ・ノン・グラータ（歓迎されざる人物）]に指定された日本初の外交官でもあった。
混乱の世界情勢下で彼はなぜ、自分だけでなく家族までもが危険に晒される諜報戦に身を投じ、政府の許可を待たず独断でユダヤ難民にヴィザを発行し続けたのか。
終戦から70年の節目となる2015年、映画「杉原千畝 スギハラチウネ」でその決意の裏に秘められた感動の真実が明らかになる！

戦後70年の時を経て、“真実の物語”が感動超大作としてスクリーンに甦る！

☆【ペルソナ・ノン・グラータ（歓迎されざる人物）とは】

外交用語の一つ。ラテン語の直訳で「好ましくならざる人物」の意から転じて、「歓迎されざる人物」という意味で使用される。1937年、当時のソ連は在モスクワ大使館赴任予定だった杉原千畝に、ソ連に反発するロシア人との親交があるとの理由で【ペルソナ・ノン・グラータ】を発動し、入国を拒否した。日本政府は国際慣例上先例なきことと抗議するも実らず、千畝のリトアニア赴任への契機となった。



杉原 千畝 (すぎはら ちうね)

1900～1986 日本の外交官

2015年12月公開 東宝 上映時間139分

監督：チェリン・グラック

脚本：鎌田哲郎 松尾浩道 音楽：佐藤直紀

キャスト：唐沢寿明 小日向文世 板尾創路

小雪 濱田岳 滝藤賢一

塚本高史 二階堂智 石橋凌 他

